

2026年4月 マルチポジションCT *Aquilion Rise*

導入！

カレス記念病院 放射線科 中村仁志

カレス記念病院開院から一年、待望の2台目CT装置として
『Aquilion Rise』が 道内1号機として当院に導入されました

立位・座位での撮影により、従来の臥位撮影では発見されなかった病変や
体位変換による臓器の変化など、今までには無かった新しい知見が得られる
可能性があります。

当院は一般病院であるため、通常の2台目CTという位置づけでも
マルチポジションCTである Aquilion Riseは
『臨床価値』と『病院経営』の点から可能性を感じる装置であると思います。

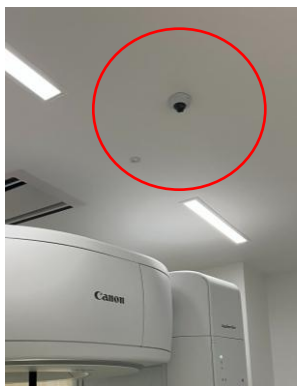


立位モード



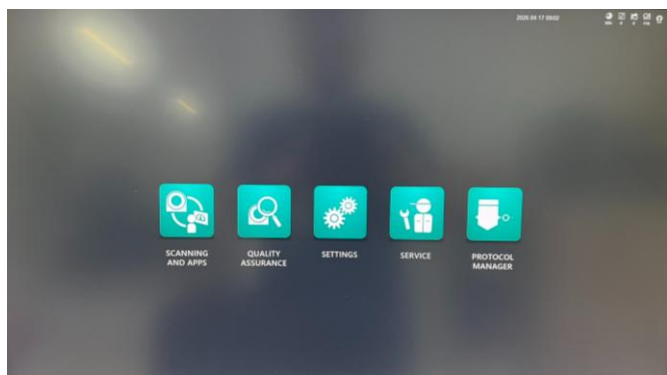
臥位モード

天井高 3 m と比較的広い当院CT室においても存在感のある本体。
立位モードと臥位モードの切り替えは約 30 秒。検査毎にモードを切り替え運用。



4 台のカメラ。

検査に応じたオートカメラポジショニングや、立位・座位モードでの患者をモニタリング

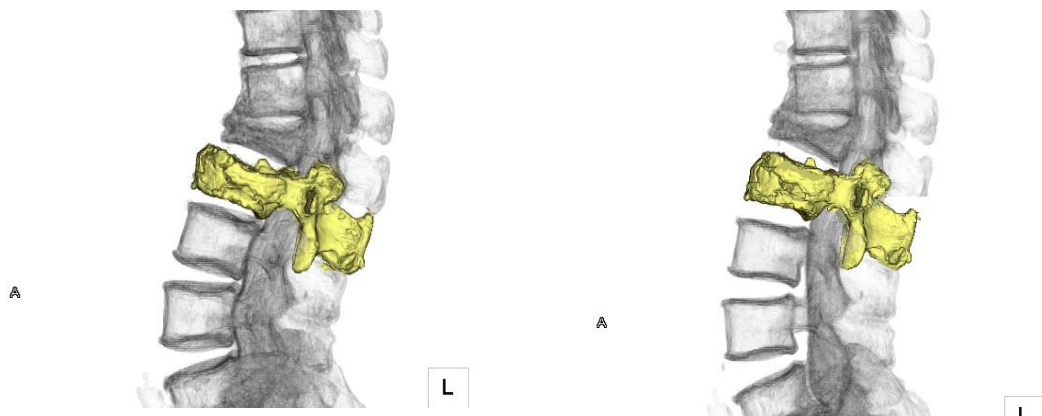


コンソール画面。撮影中に操作画面上にカメラ画像が表示（右図：赤丸）

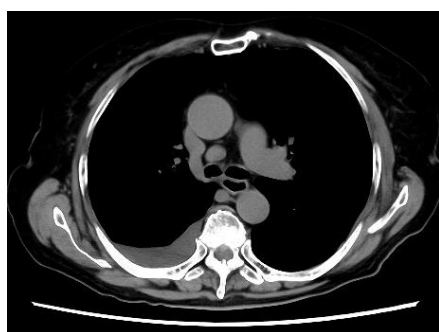
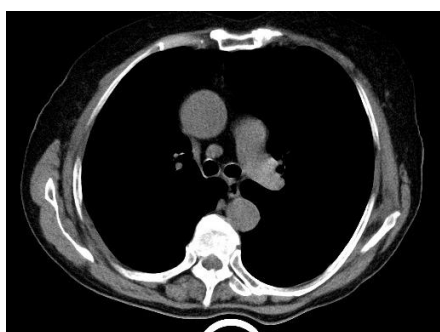
操作性に関しては昨年導入されたPRISM N-UXと同仕様のため、特に違和感なく使用しています。

操作性は問題無いのですが、立位・座位撮影におけるポジショニングやガントリ動作時の安全性の確認など、今までと違う注意点があるため、ある程度慣れは必要かな…と思います。

導入し1ヶ月の現状では、胸部健診や呼吸器科、整形外科からの検査依頼が主ではありますが、立位や座位撮影の有用性を模索し、複数の臨床科医師に協力を得ながら様々な症例を経験したいと思います。



骨粗鬆症性椎体骨折（OVF）症例
体位によって、椎骨の変形が見られる。左図：立位、右図：臥位



体位によって奇静脈の径が顕著に変わり、胸水も重力に従い移動左図：立位、右図：臥位